

福山市老人大学 創立45周年記念式 式辞

先程は、永年勤続の講師4名に感謝状を、30期以上在籍の老生8名・20期以上77名の各代表に、表彰状を、額を添えて授与させていただきました。

講師の先生方には、長年に亘る懇切丁寧なご指導に心から感謝申し上げます。そして、老生の皆さんの生涯学習への高い意欲に敬意を表します。

1973年6月6日、老人大学は、社会福祉会館・現在の市民参画センターで開校式が行われました。当時、福山市は、1965年の日本鋼管製鉄所誘致によって、全国から大勢の若者を迎え入れ、産業都市として飛躍的な発展を遂げていました。そうした最中の**老人大学開校は、将来の高齢社会を見据えた特筆すべき先見の明**でありました。

初年度は、社会福祉会館を借用して、教養・書道・園芸・手芸の四教科に351名の入学者。翌年度は、俳句・茶道・詩吟を加え、研究科も新設。後半から現在地に移って**専用校舎**での学習となりました。

初めの2年間は、半年を1期。3年目からは、1年を1期とし、学生数も1000名に増加。その後、華道・日本画・民謡などの教科が順次、開設されてきました。そうして、1085年には学生数が2000名を越えました。

こうした創成期を経て、創立45周年を迎えた今年度は、**32教科・97クラスに2612名**・昨年度より30名多い学生が、複数受講を加えると延べ3080名が集っています。

その老人大学が、本日ここに枝廣福山市長のご出席、来賓として、早川市議会議長・小川市老連会長・各副会長・池口元老大学長・枝廣霞学区連合町内会長・渡辺霞公民館長のご臨席、大勢の老生のご出席を賜って、創立45周年記念式を挙行できますことを大変、有難く・嬉しく存じます。

30年余り前、私の親父とお袋も、私の子ども達の世話をし、地域の役目も担いながら、老人大学に通っていました。特に親父は学生会長を仰せつかって、現職の私より忙しい日もあるほどに通い詰めていました。年老いた両親が、毎日のように出かける所があることを、息子として大変に有難く思っておりました。

そして、今、後輩の皆さんから、「実は家の親が老生で世話になっています」と、よく声を掛けられます。そうした時、老人大学は、**老生を親に持つ現役世代にとっても大切な所**、なのだと確信する次第です。

超高齢社会となった今日、**健康長寿は、高齢者のみならず社会的・経済的に全国民的な関心事**であります。老人大学の実施要綱の始めに、「高齢者が健やかで、生きがいを持つための生涯学習の場とする」と明記されています。**老人大学での教育と教養を高める学習と活動が、健康長寿に果たす役割は、極めて大きいものがあります。**

老人大学は、1996年・平成8年に、秋篠宮殿下・妃殿下のご視察をいただいております。また、一昨年の2016年・平成28年には、BSテレビ番組「空から日本を見てみよう」で全国放映された、福山が全国に誇り得る高齢者のための大学として、発展し続けています。

「健康と安全が一番」を合言葉に福山市民の**健康長寿に一層大きく貢献する老人大学**として、本日お集りの皆さんが、5年後の創立50周年を共に盛大にお祝いされますことをご祈念申し上げ、式辞といたします。